

HipHopカルチャーの歴史とその影響力について

History of hip-hop culture and the influence

1K06B028-5 出澤 信

指導教員 主査 寒川恒夫先生 副査 吉永武先生

はじめに

HipHopカルチャーが、誕生して30数年でアメリカのヒットチャートを賑わし、世界中でビデオが流れ、莫大な金を生む産業に成長し、政治にまで影響力を持つ世界的な文化に発展した。音楽、ダンス、グラフィティ、ファッションといった要素を含むこの文化がこの30年間でいかにして現在の影響力を持つようになったのか、そしてその影響力はどこまで本物なのか。それぞれの歴史たどりながら、HipHopが何を表現してきたか、これから何を表現してゆくのかを本論文のテーマに置いた。

第一章 HipHopの始まり

ニューヨークのブロンクスで芽生えたHipHopカルチャーの始まり。ストリートで行われていたブロックパーティから始まり、ジャマイカから来たDJクール・ハークが二枚のレコードを使い、曲のブレイク部分をつなげてブレイクビーツを発明し、アフリカ・バンバータによってHipHopという文化に発展する。パーティの主役がDJからMCに変わり、多くの名MCの登場、アンダーグラウンドでのラップミュージックの発展。そしてシュガーヒル・ギャングの“Rapper’s Delight”によって世の中に現れるまで。

第二章 グラフィティアート

フィラデルフィアで生まれたスプレーによる落書きが文化になるまで。HipHopカルチャーの中でも重要な構成要素の一つであるグラフィティの誕生と落書きからアートになるまでの変化と、HipHopとのつながり。ニューヨークのシーンや、ライターが飽和状態となり、ニューヨークで起きた一時期の混乱と、アートとして認められるまで。

第三章 ダンスカルチャー

ハークが発明したブレイクビーツによって生まれたブレイキング、最初はパーティでのブレイクビーツに合わせてそれぞれが自分の技を披露していたスタイルからバトルの手段として発展するまで。ダンス自体はHipHopの中の大きな枝であり、B・ボーイの語源にもなった。現在は世界大会も開かれる程の文化であるダンスの始まりと、それ以降現れた西海岸発のロッキング、多くの映画に取

り上げられるなど、HipHopから独立した文化としての顔も持ち、今なお新しいダンス文化を生み続ける。現代のダンスで、映画「Rize」にも題材にされたクランプダンスとその背景、そして踊る人々の感情や背景について。

第四章 ラップミュージック

DJクールハークが生み出したブレイクビーツにリズムカルな言葉を乗せて韻を踏んだラップ。“Rapper’s Delight”によってアンダーグラウンドから世界に飛び出したこの音楽は、黒人の一部の人々の共有物から一ジャンルとして多くの若者に支持され、チャートを賑わす。初期のアーティストやラップが文化になるまで、そしてオールドスクールからニュースクールへの移り変わり。RUNDMCやNWA、インタースコープレコードの出現によって、HipHopを取り巻く環境の変化、音楽産業としての成長、初めてのラップレコードから東西抗争、HipHopがいかにしてアメリカの音楽業界で一大勢力を築いたのか。

第五章 HipHopの影響力と未来

HipHopの持つ影響力について考える。30年の歴史と、それまでの変化、黒人の文化であったHipHopが、いつのまに全米を巻き込んで一大産業となり、莫大な利益を生み出すマネーゲームとなり、多くの若者に支持されるアーティストやプロデューサーが政治的な発言や取り組みをするようになる。政治にまで影響力が及ぶようになった現在、その力は現在どこまで及んでいるのか、それまでの歴史からなぜ現在の影響力を持つに至ったか。これからますます影響力を増すであろうHipHopは、時代と共にこれからも変化してゆくだろう。